



うちのイチ押し!

大阪市

2018

こどもカーニバル

市内の青少年団体などの協力を得て、全市のこどもたちが家族や友だちと楽しく遊べることも同士の交流の場として、わくわくドキドキの楽しい催しを行います!

- セレモニー広場…こどもたちによる鼓笛隊やプラスバンド等の演奏などが行われます
- わんぱく広場…スタンプラリー、ゲーム、ストラップ工作など
- 遊び体験コーナー…紙飛行機チャレンジなど
- 模擬店コーナー…フランクフルト、コロッケ、ジュースなど

日時 **4月22日(日)** **自由入場**
10:30~15:00 ※雨天中止(小雨決行)

場所 大阪城公園 太陽の広場、野球場
(JR「大阪城公園」、地下鉄「大阪ビジネスパーク」)

対象 どなたでも

費用 入場無料(コーナーにより一部有料)

お問い合わせ **大阪市子ども会育成連合協議会**
電話: 6941-1116 (平日10:00~17:00)
FAX: 6943-8906

大阪市子どもカーニバルとは

市内の青少年団体などの協力を得て、青少年の健全育成を願い、昭和54年から開催されています。

広場中央で行う開会式(10:30~)では、小学生による開会宣言、小中学生などによる古典演奏など、こどもたちが主役になって活躍し、さまざまな催しで、一日中笑顔と歓声があふれるカーニバルです。



こどもカーニバル会場



おおさか歴史探訪 122

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

薩摩藩蔵屋敷跡 — 倒幕の隠れた舞台 —

今回も幕末・明治維新に関係した話です。土佐堀川や堂島川に面した河岸には西国大名の蔵屋敷が軒を連ねていました。そのなかでも薩摩藩の蔵屋敷は大規模なもの一つで、琉球使節の宿所とされたという記録もあるくらいです。そして右写真の石碑の建つ土佐堀川沿いにあった屋敷を上屋敷とし、江戸堀に中屋敷、立売堀に下屋敷を置いていました。

蔵屋敷には本藩から派遣された留守居役の武士のほかに、蔵物出入りの事務を行う「蔵元」、金融を担当する「掛屋」といった重要な役割を担った町人職員がいましたが、薩摩藩では船場梶木町の両替商・千草屋(平瀬家)がそれを担っていました。ここで奄美諸島特産の黒砂糖を独占販売し、薩摩藩は倒幕の資金を蓄えていきます。千草屋はこの時の薩摩藩との関係から維新後の動乱をなんとか乗り越え、近代大阪の財界を牽引していくことになります。

さて、鳥羽・伏見に戦端が開かれたことを受け、慶応4(1868)年1月4日早朝、大坂城の徳川方は薩摩藩の3つの蔵屋敷に退去命令を出します。薩摩藩はこれを見越して自ら上屋敷に火を放ち、藩役人は残らず逃走、市中は大騒動となります。さらに長州藩が攻めくると伝えられ、町人たちは我も我もと逃げ出し、6日夜には、新政府軍に敗れたとの知らせを受けた徳川慶喜も側近たちとともに大坂城を脱出、八軒家から川船で天保山沖に停泊していた軍艦開陽丸に移り、江戸へ戻ってしまいます。そして9日には大坂城が炎上、大阪にとって今から150年前のこの年は年明け早々から大混乱だったのです。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)



西区土佐堀2丁目 三井倉庫前の石碑